

2021 年 3 月期 中間決算報告

株式会社ソラシドエア(本社:宮崎県宮崎市、代表取締役社長:高橋 宏輔)は、本日 11 月 30 日(月)、2021 年 3 月期中間決算を取りまとめました。詳細につきましては別紙「2021 年 3 月期 中間決算短信」をご参照ください。

1. 2020 年 9 月中間期(2020 年 4 月 1 日～9 月 30 日)の業績

(1) 概況

当中間会計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの企業で収益の大幅な減少が続くなど、依然として厳しい状況にあります。航空業界においても、人の移動が激減したことにより、過去に経験したことのない甚大な影響を受け、極めて厳しい状況となりました。本邦においても、政府の緊急事態宣言による都道府県を跨ぐ移動の自粛などにより旅客需要が大幅に減少しました。緊急事態宣言解除以降、旅客需要は緩やかに回復に向かいつつあるものの、感染者数の動向に応じ影響を受けやすい状況が続いています。

このような環境の下、当社における旅客需要も多大な影響を受けており、需要に応じた生産量の弾力的な運用(運休・減便)による運航変動費の抑制、雇用調整助成金を活用した単日休業制度の新設・継続運用、固定費用の聖域なき削減など、事業継続のためのコスト削減施策に取り組んでいます。

営業面では、8 月・9 月に東京(羽田)-沖縄(那覇)線の臨時便 25 便を含む合計 27 便を当中間会計期間に運航しました。また、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、不透明な感染状況下でもお客様に安心してご利用頂けるよう、予約変更時の手数料が無料になる『気軽にご予約キャンペーン』(2020 年 8 月 17 日～2021 年 1 月 31 日搭乗分)を実施しました。

サービス面では、新型コロナウイルス感染症対策としてドリンク(有料含む)の提供、機内販売、機内誌等のシートポケット搭載および無料貸し出しサービス(クッション・ブランケット・お子様向け絵本)を 3 月 6 日以降休止しておりましたが、ドリンクについては 7 月 1 日からコールドドリンク(緑茶・アップルジュース)の提供再開、機内販売商品については 8 月 20 日から Web 販売を開始しました。また、新型コロナウイルス感染拡大を予防する取り組みとして、『安心できる空の旅へ ソラシドエアができること』を合言葉に、お客様にとって安全で安心してご利用いただける清潔・衛生的な空港・機内の環境を整えたほか、チェックインサービスカウンター前での待ち時間の不満を解決する受付管理アプリ『Air ウェイト』を 7 月 31 日に航空業界で初めて導入しました。引き続き関係各所と協力し、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めてまいります。

(2) 業績状況

当中間会計期間における業績は、営業収入が8,144百万円（前年同期比61.9%減）となりました。事業費は13,466百万円（同23.9%減）、販売費及び一般管理費は1,457百万円（同33.9%減）となり、この結果、営業利益は△6,780百万円となりました。営業外収益460百万円及び営業外費用126百万円を加減した経常利益△6,445百万円は前年同期に比べ7,864百万円減少しました。税引前中間純利益は△6,445百万円、中間純利益は△5,466百万円となり、中間会計期間においては減収減益となりました。

【業績状況】	2020年9月 中間期	2019年9月 中間期	増減	前年同期比
営業収入(百万円)	8,144	21,378	△13,233	△61.9%
営業費用(百万円)	14,924	19,912	△4,988	△25.1%
営業利益(百万円)	△6,780	1,465	△8,245	—
営業利益率(%)	△83.2	6.8	—	—
経常利益(百万円)	△6,445	1,419	△7,864	—
中間純利益(百万円)	△5,466	1,083	△6,550	—

(3) 財務状況

当中間会計期間末における総資産の残高は40,766百万円（前事業年度末31,623百万円）となり前事業年度末に比べ9,143百万円増加しました。流動資産は、現金及び預金の増加9,651百万円等により8,575百万円増加し18,088百万円（同9,512百万円）となりました。固定資産は、繰延税金固定資産の増加806百万円等により22,678百万円（同22,110百万円）となり568百万円増加しました。

負債の残高は34,012百万円（前事業年度末19,791百万円）となり、前事業年度末に比べ14,220百万円増加しました。流動負債は短期借入金の増加1,166百万円等により1,495百万円増加し8,559百万円（同7,063百万円）となりました。固定負債は長期借入金の増加12,599百万円、航空機材整備引当金の増加104百万円等により12,724百万円増加し25,452百万円（同12,728百万円）となりました。

純資産の残高は利益剰余金の減少5,466百万円等により前事業年度に比べ5,076百万円減少し6,754百万円（前事業年度末11,831百万円）となりました。

【財務状況】	2020年9月中間期	2020年3月期	増減
総資産(百万円)	40,766	31,623	9,143
純資産(百万円)	6,754	11,831	△5,076
1株当たり純資産額(円)	31,778.45	55,658.84	△23,880.39
自己資本比率(%)	16.5	37.4	△20.8

※ 自己資本比率は小数点第2位以下を切り捨て

(4) 運航実績・輸送実績

運航実績は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による運休・減便により運航便数が大幅に減少、定時出発率は前年同期を上回りました。

【運航実績】	2020年9月中間期	2019年9月中間期	増減
定期運航便数 (便)	8,202	13,383	△5,181
欠航便数 (便)	164	232	△68
就航率 (%)	98.0	98.3	△0.3
定時出発率 (%)	98.8	89.5	9.3

輸送実績は、2019年度下期に増便(6便/日)があったものの、新型コロナウイルス感染症による運休・減便により、提供座席数は807,477席(前年同期比41.6%減)となり、有償旅客数は208,634人(同77.6%減)、有償座席利用率は25.9%(前年同期67.5%)となりました。

【輸送実績】 *コードシェア販売分を除く	2020年9月中間期	2019年9月中間期	増減
有償旅客数 (人)	208,634	931,600	△722,966
提供座席キロ (千席・キロ)	838,907	1,451,365	△612,458
有償旅客キロ (千人・キロ)	217,453	978,984	△761,531
有償座席利用率 (%)	25.9	67.5	△41.5

2. 2021年3月期の業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

新型コロナウイルス感染症の影響については、感染者数の動向に影響を受けやすく依然として先行き不透明な状況が続いていることから、現時点では2021年3月期の業績見通しを公表できる状況にはございません。

今後も引き続き需要に応じた弾力的な運航による運航変動費の抑制および固定費の削減に努めて業績に対する影響への緩和を図り、更なる安全・安心、快適な空の旅を提供し、九州・沖縄とともに復活を果たしてまいります。

以上

<参考資料>

(数値は全て%)

路線別輸送実績 *コードシェア販売分を除く		有償座席利用率 (前中間会計期間値)	提供座席数 前中間会計期間比	有償旅客数 前中間会計期間比
東京 (羽田)	一宮崎	19.1 (63.1)	△48.8	△84.5
	一熊本	26.6 (69.2)	△49.4	△80.6
	一長崎	24.0 (71.0)	△52.1	△83.8
	一鹿児島	28.0 (69.7)	△44.6	△77.8
	一大分	20.4 (61.4)	△48.7	△82.9
	一沖縄 (那覇)	45.3 (90.2)	525.6	214.0
	小計	23.9 (67.0)	△48.3	△81.7
沖縄 (那覇)	一宮崎	18.7 (77.2)	8.7	△73.7
	一鹿児島	26.2 (82.0)	△12.0	△71.9
	一神戸	42.6 (75.2)	△28.2	△59.3
	一名古屋 (中部)	25.9 (56.0)	△16.2	△61.3
	一石垣	41.9 (75.4)	△37.5	△65.2
	一福岡	23.7 (-)	—	—
	小計	31.7 (72.6)	△10.6	△62.6
名古屋 (中部)	一鹿児島	49.6 (55.1)	△8.2	△17.4
	一宮崎	27.9 (-)	—	—
	小計	40.5 (55.1)	69.4	21.8
全路線合計		25.9 (67.5)	△41.6	△77.6